

C：審査会の意見

「協働事業報告書」、「決算報告書」、「A：自己評価シート」、「B：相互評価シート」、および、「報告会の内容」をもとに、ご記入ください。

事業名	不登校・ひきこもり改善・自立支援事業		
事業開始年度	平成28年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
団体名	NPO法人ぜんしん	担当課名	青少年課

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

- ※ 単独より協働でのメリットや、先駆性など事業の良い点・他事業も参考にして欲しい点など
- ・団体と行政の双方の得意分野（強み）を活かすことが出来ていて、しかも参加者から高い評価を得ています。協働の「お手本」のような事業が示されたと思います。
 - ・協働の基本理念である「対等な立場での役割分担」がなされているとうかがえる。この点は更に伸展させていきたいです。
 - ・非常に難しいニーズへの対応に、団体と市役所との協働の意義を十分に生かしていると感じます。
 - ・今後も行政からの委託事業・補助事業に位置づけされるよう、伸展を期待したいです。
 - ・広報活動として「広報ひらつか」や市の全施設へチラシを配布し参加者が増えていくなど協働事業としてのメリットもあると思います。
 - ・もっと活動の詳細をPRしていただくために「広報ひらつか」で特集をしていただくなどお願いしてはいかがでしょうか。プライバシー保護の問題もあるかもしれませんが悩んでいる方はどのようにサポートしてくれるのかを知りたいと思っています。
 - ・利用者の感想には「気持ちが晴れた」「楽になった」「外に出て他者と接して楽しかった」「元気になった」「前向きな気持ちになれた」など、一歩前に踏み出せる気持ちになったという言葉があふれています。当事者や保護者の置かれた社会的背景や複雑な家庭環境など、ひきこもりや不登校の要因は本当に様々で、ひとつの場所で、一回の事業で問題がすぐに解決できるわけではなく、生きづらさを抱えた若者がほっとできる居場所が継続的にある、という状態が必要なのではないかと感じました。ネット依存の若者が増える中、平塚市として、そういった若者を全面的に支援するというメッセージを発信していた意義ある事業であったのではないかと思います。
 - ・「体を動かそう」という企画プログラムが新しく生まれたのは良かった。体育館利用機会を更に増やして行ってください。
 - ・事業報告の相談対応や参加者との意見交換の詳細を拝見すると毎回工夫を凝らしながら真摯に活動していると感じます。
 - ・詳細な事業報告書から、団体と行政担当課とが協力して相談会・スリースペースを訪れたひとりひとりの悩みや気持ちに寄り添い丁寧に対応されていることがわかります。利用者には大きな安心感が得られていると感じました。また、その場の対応で終わりがちな運営上の課題や利用者からの要望に対しても、両者で毎回終了後にきちんと話し合わせ、その後の改善に活かされているのはとても良いと思いました。

(2) 課題の改善や今後への助言など

- ・自立された方の状況を把握され、報告がなされることが望まれる。そうしたアウトカムがこの事業の評価となると思われる。
- ・一方で事業の性質上、まずは相談がなされ、外出や来場が可能となること自体も大きな成果であると思われ、相談件数を指標とすることも理解できる。
- ・企業への活動の PR を更に進めてください。
- ・今後は共催事業としてそれぞれで事業を継続するとのことですが、団体には、利用する人だけではなく、活動を支える人を増やすためにも、このような場所の価値や事業の成果（何人参加して何人自立した、という数字的なものよりも、若者ひとりひとりのストーリーを伝えられるとよいと思います）を意識して伝えていってほしいと思います。青少年課には、可能であれば場所の確保や、学校などを通して人知れず悩みを抱えている子どもたちや保護者への情報提供、積極的な広報の協力などの後方支援をお願いしたいと思います。
- ・ひきこもりの相談対応に公私を含む平塚市全体として、どのような対応をしていくか、を考えていくことが必要ではないか。とくにひきこもりの相談を受ける体制を実現したので、それを市全体で公私協働してつくりあげていく方向にすすめていただきたいです。
- ・個人情報保護の観点から難しいとは思われるが、学校や教育委員会との連携が深まることを期待したい。
- ・一日の活動時間が午前から午後と長いのでスタッフが少ないと大変ではないかと思えます。協働事業ですが「NPO 法人ぜんしん」のメンバーだけでなくひきこもりの問題を何とかしたいと考えている市民活動団体にその日だけ楽しいプログラムを考えてもらい一緒に手伝っていただくという連携の仕方もあるのではないかと思います。
- ・いきなりではなくまず「ゲーム依存・ひきこもりの問題を一緒に考えよう」という現状の報告の講演会などを開催して一緒に考えサポートできそうな団体を募るなど連携の輪を広げて行けると良いのではと考えます。「ひきこもり」は大きな社会問題でたくさんの方々救いの手を待っています。連携と広報が鍵になると考えます。
- ・委託事業に至らなかったのは、いろいろ事情があるとは想像するが、相談の仕組みについては委託事業以外であっても、公私の協働の方法は考えられないでしょうか。
- ・事業報告書（アンケート集計結果を含む）の内容は詳細であり、団体の今後の活動において貴重な資料になると思います。しかし、この報告書のように「詳細を極める」ことも大事ですが、限られた時間をできるだけ活動や問題解決に費やすためには、「どこまで記録する必要があるか」、「報告書の作成にどのくらいの時間をかけるか」という視点も大切です。

C：審査会の意見

「協働事業報告書」、「決算報告書」、「A：自己評価シート」、「B：相互評価シート」、および、「報告会の内容」をもとに、ご記入ください。

事業名	ひらつか市民活動センター協働運営事業		
事業開始年度	平成 29 年～	提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
団体名	NPO 法人湘南 NPO サポートセンター	担当課名	協働推進課

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

- ※ 単独より協働でのメリットや、先駆性など事業の良い点・他事業も参考にして欲しい点など
- ・情報紙（ひらつかの風）、フェイスブックなど活動 PR がよくできています。
 - ・目標に掲げた「情報発信の強化」について、Web や紙媒体での情報発信が高い評価を得ていることは素晴らしいことだと思います。
 - ・市民活動と地域活動の融合などが生まれてくる可能性がある。平塚の街の盛り上がりにもこれから繋がっていくと思います。
 - ・今年度、新たに公民館との複合施設での管理運営となった。「地縁」・「志縁」の理念を融合させ、平塚市ならではの画期的な事業展開を期待したいです。
 - ・1 階が公民館なのでどのように地域の活動と助け合って具体的に発展していくか楽しみです。11月の活動センターまつりなどに期待したいと思います。
 - ・新しい「ひらつか市民活動センター」でよりスタッフのチームワークも良くコーディネート機能の強化や情報発信の機能も充実してきていると感じます。
 - ・本庁の協働事業推進課との協働の進め方も今まで通り順調だと感じます。
 - ・目的を共有するためのコミュニケーションがしっかりと取れていたように感じます。職員体制や団体のスキルや経験を活かした事業企画など、3年をかけて徐々に民営化させていく中では、運営側だけではなく利用する側の意識改革など、見えない部分での難しさもあるのではないかと思います。また昨年度は新センターへの移転もあり多忙な日々であったにもかかわらず、数々の新しい取り組みへのチャレンジがあり、相談件数の増加や事業への市民活動団体の参加実績などから、新生センターへの大きな期待感が伺えます。特に、ホームページや情報誌、パンフレットのリニューアルは、市民活動のイメージや関心度のアップに確実に繋がっており、今回の協働運営の大きな成果のひとつであると思います。
 - ・着実に事業を実行しており、委託への移行の準備がすすんでいると、評価できます。

(2) 課題の改善や今後への助言など

- ・企業と NPO のパートナーシップミーティングを継続していけば、マッチングの機会が増えて、可能性が広がっていくと思います。
- ・多様な場面で、自治会、公民館、福祉村、地域包括ケアなどの活動と相互に連携を図ることができれば、理想の姿と思われ、さらなる活動の伸展を期待したいです。
- ・令和元年度は協働運営の最終年度であり、平塚市の市民活動の将来につなげるためにも、地域や企業との連携を進めていただきたいと思います。
- ・市民活動センターと崇善公民館の連携は既に始まっており、今後の展開がとても楽しみです。連携を進めるためには、(大雑把な表現で恐縮ですが) センターのスタッフと公民館職員、運営委員との情報の交換・共有が重要です。
- ・活動ファンド創設の頃の機運の高まりが薄れているようにも感じられる。また、団塊の世代が活動の場から離れていくにつれ、「市民活動」の全体規模が小さくなることも危惧される。管理運営事業に加え、自主事業や啓発的な事業の充実もお願いします。
- ・研修機能の強化にも力を入れていくということで評価しますが、実は実務の問題より市民活動とはどのようなことを目指すのかが余りわからないまま登録して活動している団体もあるように感じます。「専門性を高めて市民に役立つ」という視点にハードルを感じているのをどのようにやりがいのある活動にしていくのかというソフト面の充実をはかる研修などの企画も是非お願いしたいと思います。
- ・相談やコーディネート機能の強化の部分では、団体がこれまで培ってきたスキルや人脈、つながりに対して皆が期待を寄せているところだと思いますが、職員誰もが一朝一夕に身に着けられるものでもなく、しっかりと機能させるためには、市民活動の現場に行ってヒアリングをしたり、いろいろな人に会ったり SNS を通して情報交換したり、研修に参加するなど自分で学んだり、手間も時間もお金もかかります。将来に向けて、人材育成にも力を入れていってほしいと思います。
- ・昨年創設された「平塚市協働のまちづくり基金」についても、ぜひ協働で取り組み、よりよい制度に発展させられるとよいと思います。
- ・わずかとはいえ、団体自身で支出している費用、事業収入の位置づけが気になります。委託業務と湘南 NPO サポートセンター自身の仕事との仕分け問題につながるように感じます。「完全民営化」は委託の方法をとると理解していますが、この種の委託は、団体運営の基盤を補助する性格も持ち、自主事業との区別は、難しいところもあります。1 年間で十分な調整をすることが必要であると思います。